

「見守る」

■グループワーク

1

写真をみて
気づいたことについて、
話しあってみましょう。



2

エピソードを読んで、
グループで
話しあってみましょう。



小学校6年生の進君は、授業中もまじめだし、友だちのことを考えて行動できると担任の先生にほめられています。でも、母親の知子さんにとってはまだまだ頼りない小学生にしか思えません。

ある日の夕食前。明日、学校にもっていく接着剤がないことを思い出した進君は、近くのコンビニに買いに行こうとしました。

知子さんは、もう暗くなり始めている時間だったので、気がかりでしたが行かせました。

自転車で出かけた進君は、暗くなる前に帰ろうと、近くの空き地をとる近道をしました。その空き地では、バイクにまたがった数人の少年たちがしゃべっていました。急いでとおりすぎようとしたとき、石に乗りあげてチェーンがはずれてしまいました。あわててなおそうとしましたが、その少年たちが自分を見ているような気がして、なかなかうまくいきません。

そのうちの一人が近づいてきました。

少年は、うつむいて知らんぷりをしていた進君にかわって、すばやくチェーンをはめてくれました。

「チェーンがゆるんでいるからだよ。ちゃんとなおしてもらえよ。」と言われた

進君は、「ありがとう」と言うのがやっとでした。

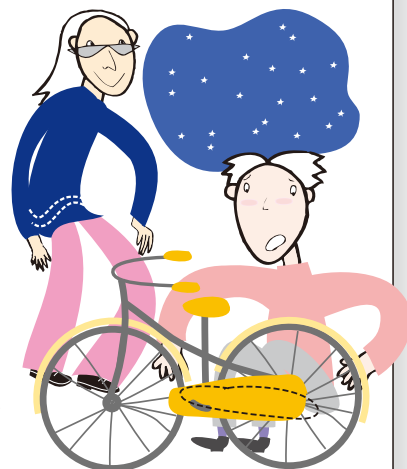
ハラハラしながら待っていた知子さんは、チェーンがはずれたことを話そうとした進君にきつい口調で言いました。

知 子：「あのあたりは、よくない子が集まっているのよ。バイクを乗りまわしたり、花火をしたり、あぶないって近所の人が言ってたわ。こわくなかった？ 話しかけられてもあいてになっちゃだめよ！」



進君のひとりごと…

●あのお兄ちゃんたち、
こわそうに見えたけどいい人だったのになあ。
お母さんは、会ったことも
話したこともないのに、
どうしてよくない子って決めつけるんだろう。
人を見かけで判断しちゃだめって
いつも言っているのに…。



話しあいのポイント

●エピソードの、どんなところが気になりましたか？

●あなたは子どもの意見を十分に聞くことができているでしょうか？